

令和6年度 東栄中学校「学ぶ力」育成プログラム

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：33005

実 態	「学ぶ力」	
	これまでの 成果	課 題
	◇「新しく学んだことを、他の学習や生活の場面で使おうとしている」の項目で、68.9%から81.4%に上昇し、札幌市の平均より高い結果となった。 ◇「自分で計画を立てて勉強している」の項目で、40.3%から59.8%に上昇し、札幌市の平均より高い結果となった。 (アンケートの結果%は中2から中3への変容になります)	◇リフレクションシートを実施する中で、目標を意識する生徒とそうでない生徒と差が見られた。また、目標を立てることで前向きに取り組む姿勢は見られたが、自分に合った目標を立てて、授業に取り組める生徒は少ない。 ◇習得した知識や技能を日常生活に活用する力を高める指導の工夫や1人1台端末を活用した、より効果的な学習の工夫。

「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く相互承認の態度〉の現状と課題

◇「自分の意見を進んで発言しようとしている」の項目で、34.5%から37.1%に上昇したが、札幌市の平均より低い結果となった。

◇各教科における指導方法や教材の工夫においては、既習事項を用いて、表現する活動やペア学習・グループ学習を推進していく。また、「思考力・判断力」の高まりが自ら実感できるための工夫や豊かに表現する魅力を実感させるための工夫を行うとともに、自分の言葉で表現することを困難としている生徒への支援も同時に進める。

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

意味理解を伴った知識の習得と、知識を使いこなす力 (※知識には、技能も含みます)

取 組	AARサイクルの視点で捉え直した 課題探究的な学習の推進	さっぽろっ子宣言「プラスのまほう」に基づく 自治的な活動の充実
	◇子ども一人一人の主体性を大切にした多様な学びの実現 →イントロダクションを大切にし、課題を自分ごととして捉え、学びの見通しをもてるような工夫（見通しA） →自分の目標をもち、その実現に向けて必要な資質や能力を身に付けようとするのできる生徒の育成（行動A個別） →ペアやグループ活動を通して、生徒たちが協働しながら、知識を使いこなす力を伸ばす指導方法の工夫（行動A協働） →ICTなど教育機器や特別教室を活用した探究的な課題等を設定し、情報収集力・判断力・表現力の育成	◇子どもが「～したい」を実現する主体的な活動の実現 →探究的な課題など、課題を明確に提示し、「自らの学び」や「人との学び合い」の場面を充実 →発表する機会が増えたり、できないことを自然に教え合ったりできる温かい学級づくりへの指導 →基礎・基本の定着を図るための学習シート〔リフレクションシート〕の継続的实施などのサポート体制の充実（振り返りR） →1人1台端末を利用する課題を設定し、家庭学習でICTを効果的に活用する力を高める指導の充実

〈本プログラムの実行に向けて〉

